

**第2回 美里町総合計画審議会 総務行政部会  
会議録**

年 月 日	令和7年8月19日(火)
場 所	本庁舎3階会議室
審議開始時間	午前・ <b>午後</b> 3時10分
出席委員	佐々木秀之委員(部会長)、志田文昭委員、赤間公太郎委員、石垣直樹委員、伊藤啓一委員、武田莉愛委員、西條瑞希委員、片倉利子委員
欠席委員	なし
出席職員	高橋憲彦まちづくり推進課長(幹事)、佐野仁総務課長、小林誠樹企画財政課長、門間裕匡税務課長、中川由華会計課長、佐々木達也産業振興課課長補佐、櫻井紳司防災管財課課長補佐、渡邊聡企画財政課長補佐、高橋勲企画財政課係長
審議終了時間	午前・ <b>午後</b> 4時45分

**審議開始**

—午前・**午後** 3時10分 開始—

**協議**

高橋課長           ただいまから第2回美里町総合計画審議会総務行政部会を開会させていただきたいと思います。開会にあたりまして、総務行政部会佐々木部会長からごあいさつをいただきます。

佐々木部会長      前回同様ですね、この部会とはとにかく皆さんに、ざっくばらんにお話いただくという場にしたいと思ってます。何かを読み上げるだけですと、なかなか本質的なものが得られませんので、吸い上げるところは吸い上げて、この総合計画をより良くしていければと思っております。

また、今日は、西條委員からご提案をまとめてきていただきましたので、それをちょっと発表していただき、そのあとゆっくり全員の議論に時間をとっていきたいと思います。それでは皆さんよろしく願います。はじめに、本日から出席の伊藤委員の自己紹介をお願いいたします。

伊藤委員           皆さんはじめまして。舞台ファームの伊藤でございます。専務をやっております。中埴地区で日本最大級の植物工場をやっております。また、地元の皆さんをまとめて、セブンイレブンのカット野菜や営農型ソーラーシェアリングの実証実験をやっていきます。

佐々木部会長      美里町の方で知らない人はいないと思うんですけども、この部会のテーマでもある若者に定住してもらうというところで、働き口という部分ですね。その点からも議論をいただければと思います。それではですね、議事に移らせていただきます。

議事につきましては、一つ目は前回からの変更点について、二つ目は指標の設定について、事務局の方から説明をお願いしたいと思います。よろしく願います。

高橋課長

先ほど全体会でもお話がありました、基本計画の各施策について、前回からの変更点を最初に説明をさせていただきます。

資料 26 ページでございます。第 1 章の部分の施策 3 の再生可能エネルギーの利用促進と脱炭素の推進という部分。重複しますが 3 の 2 現状と課題の②ですね、脱炭素社会の実現にはということで、社会という文言が追加されております。

続きまして 28 ページでございます。施策 4 の地域運営組織住民活動を活性化させるための対策 4 の 2 の④の 2 行目でございます。また、LGBTQ をはじめ、障がいのある方、というふうに文言を修正しております。

続きまして第 6 章 95 ページになります。

第 6 章持続可能なまちづくりの方の施策 10 持続可能な行財政運営の部分、上から 7 行目からになります。本町では美里町第 4 次定員適正化計画を策定し、行政サービスの維持に必要な人材の確保に努めてきました。今後、行政需要のさらなる多様化が求められる中、限られた人材で行政サービスを提供していくためには、組織運営の最適化、デジタル化やDXデジタルトランスフォーメーションなどを推進し、行政における人的資源を有効に活用するための取組を進めることで、持続可能な行政運営を図っていきます、というような修正を加えさせていただいております。

その下から 3 行目、高齢化の進展に伴う、ということで文言を追加しております。その後も、財政的課題は山積していることから、持続可能な財政運営を図っていきますというような修正を加えております。

次に、100 ページになります。

施策 35 財政を健全化するための対策で、35 の 2 現状と課題の④でございます。納税環境の整備というふうになっておりまして、3 行目、法令等に基づき、執行停止を含めた滞納整理を行っていく必要がありますが、限られた人材で効果的に進めるため、徴収体制の見直しが必要となっております、というような修正を加えております。

また 101 ページです。35 の 3 の施策の展開の④、現年度分の町税収納率 99.0%を維持するため、徴収体制の見直しを図りますというような修正を加えております。

前回からの変更点については以上になります。

佐々木部会長

ありがとうございました。この間、事務局の方では、各部会の議事録あるいは、その議論の状況を見ながら、計画に反映していただいていますね。今回も委員の皆様の積極的なご意見をいただいて、それをまたできる限り反映していくということにしていきたいと思っております。

まず、西条委員の方から、いろいろと考えていただきましたので、ご意見をいただきたいと思っております。

それではご発表よろしく申し上げます。

西條委員

今日も時間の制約があるため、先に提案をさせていただきたいと思っております。まず、22 ページ目の施策 1 移住定住を促進するための対策についてなんですけれども、まず一つ目が新たな住環境の創出についてです。

1-3 施策の展開の①に新たな住環境の創出とあります。駅東地区は、通学や通勤に便利な点、教育施設が充実していることが大きなメリットに感じます。また美里中学校側などを活用して、4 区・5 区と駅東地区を拡張することはできないかと思いました。

若しくは、駅東地区に限らず、町内でも、交通環境や生活環境が整っている場所に、中規模、小規模でも宅地開発が進むことで、移住定住の受皿になるのかと思いました。

佐々木部会長 1 番目は、宅地の部分ですね。本当に美里にお住まいになって本当に素晴らしい場所だということで、宅地開発について、まず一つご意見いただきました。それでは次も続けてお願いします。

西條委員 続いて、②の空き家バンクについてなんですけれども、小牛田駅西側の商店街などを活用した起業者のチャレンジ支援というのを提案したいと思います。

1 の 3 施策の展開の②に、空き家バンクの制度に空き店舗を加えていくとあります。20 代から 30 代で小牛田駅前商店街の空き店舗を利用して起業したという声をたびたび耳にします。空き地や空き家を活用したい若者もいるように感じますが、金額が高く手が出せないというのが現実のようです。

起業希望者がチャレンジをできる空き家や空き店舗の活用方法があると良いと感じました。空き家活用も、産業振興と連携した仕組みづくりが有効なのではないかと考えます。この移住定住の施策でも産業振興と連携する点を記載してみてもどうでしょうか。

佐々木部会長 施策 1 に、空き家バンクに空き店舗を加えるっていうところがありましたけども、それを起業者、あるいは会社のプロジェクトをするような場所にしていくような取組がいいのではとのご提案をいただきました。こういったことも、やっぱり大事ですよ。続けてお願いしたいと思います。

西條委員 続いて 3 点目になります。移住者や定住者に対する支援の充実についてなんですけれども、若年層をターゲットにした重点支援を考えました。

空き家バンクを活用したりノベ支援等について既に行われているようですが、若い世代やこれから結婚や子育てを行う世帯をターゲットとしたファミリー向けの重点的な支援の検討が有効であると感じました。

佐々木部会長 今のお話で重点的な支援ってというのは、何かこういう支援があったらいいなど、ご自身が思われていることが何かありますか。

西條委員 すいませんちょっと具体的などころまではまだ。

佐々木部会長 ぜひその辺は、武田さんや片倉さんも、ご意見あるかもしれませんので。やっぱり女性の視点で、どういう支援があったらいいかなってというのは重要であると感じますので。必ずしもそのお金がかからない支援も多分あると思いますので、そういう議論ができるといいですよ。

続きまして、4 番目のご提案を、お願いしたいと思います。

西條委員 こちらは人口減少抑制対策全般としてなんですけれども、涌谷町などでも行われていますが、美里町でもお試し移住、地域体験ツアーが行われているようですが、もっと広く PR する必要があるのではないかと考えます。

また、体験ツアーの中に、地域の催事や事業者と触れ合う機会を作ることで、後継者の確保や新たな地場産品を生かしたブランドづくりにつながり、それが新たな雇用や新たなビジネスの芽になるのではないかと考えました。

佐々木部会長      この部分、確かにそうですね。試し移住地域体験ツアーっていうのを、やっぱりきちんと広く周知して、まず来てもらって見てもらうことがすごく大事だってことですね。この辺のところは、例えばさっきの伊藤委員の話なんかもありましたけども、例えばレタス工場とかですか。行ってみるとやっぱり違うんですね。いろんな方と連携していくことは絶対に必要だと思います。

それでは施策4と34についても、考えてきていただきましたので、次は施策4について、ご発表いただければと思います。

西條委員            27 ページ目の施策4になります。地域運営組織、住民活動を活性化するための対策についてです。行政区の活動や行事を維持することは大切なことだと思うのですが、ライフスタイルや価値観の多様化により、従来の形をそのまま継続するのは難しくなると感じました。今後は、今の暮らしにあった新しい地域づくりの形にシフトしていくのが継続できる形になるのではないのでしょうか。

小規模でも実際に役立つ活動や気軽に関わられる仕組みにすることで、住民活動をより柔軟に進められると思います。行政としては、活動の負担を減らすサポート体制を考えられると良いのではないかと感じました。

佐々木部会長      施策4につきましても確かにその通りで、行政区っていうのは非常に伝統的で強力な組織で、やはり災害なんかを考えると、絶対に必要な組織ではあるんですけども、少し変化してきているんですね。

私も数年前になりますけど、武田委員がまだ大学3年生だった頃に美里町の各行政区を全部回りまして、美里町の事例集を作ったことがありました。やっぱり同じ行政区っていうのも、一つ一つ違うんですね。

それぞれの良さっていうものをきちんと見だして、プラスアルファ若い人たちがどういうふうに入っていけるか。一緒にやるかという。やっぱり協働とか協創。そこを強化していくことだと思いますので、ここもぜひ踏み込んで、付け加えていくといいですね。

次に、施策34 公共施設を総合的計画的に管理するための対策ということで、お考えいただきましたのでお話しください。

西條委員            98 ページの施策34 になります。公共施設の老朽化が進む中でより効果的な施設のあり方が必要であると感じました。

町の魅力創出の観点では、個人的意見ですが、子供の室内遊び場、高齢者の健康づくりや趣味活動の場、マルシェが行えるシェアスペース、アート展示やスタジオカフェなどが一体となった複合施設があるといいと思います。また、現在の美里町では、営利目的で使用できる施設がほとんどなく、私自身も個人でイベントを企画する際に苦労しています。町民がもっと活発にイベントを行えるよう、公共施設の利用のハードルを下げただけであればありがたいなと思いました。

佐々木部会長      これも、施策4の話とつながっていますよね。やはり市民活動の持続性っていうのはやっぱり問題になっていて、対価が無く続けるというのは難しいところがあると思います。行政施設は営利目的というか、お金を取っちゃうと営利目的になるわけですね。これは検討していく段階だと思います。

鹿島台に築50年の学童農園がありまして、昨年、住民ワークショップやっただんですけども、同じ世代の方が同じこと言っていましたね。お金を取るとなると、公共施設が使えなくなっちゃうそうなんです。ただやっぱりニーズがありますので、きちんと整理し直して、本当に心わきたつという意味では

不可欠だと思いますので、その辺は私も共感します。

佐々木部会長

西條委員からご提案いただきました。全ていい意見ですよ。何らかの形で計画に反映できればと思います。また、この後、委員の皆さんで今のことも含めて踏み込んだ議論していきますので。この世代の意見ってやっぱり重要で、私も代弁できないところが多いので、よろしくお願いします。

引き続き、各委員からご意見等いただいきたいと思います。順番で片倉委員の方からいきましょうか。

片倉委員

よろしくお願いします。第1章の21ページ、高齢化が進む中で住民による主体的な地域活動の維持が困難となっていますというところ。

私は、南郷の田園フェスティバルの事務局をやっているんですけども、そちらの実行委員が高齢になってきて、今後どうしていったらいいのかなという不安があります。

36回も続けてきたものですから、今後もどうにか、続けていきたいなっていうことで実行委員のみんなで思っているんですけども。実行委員会に若い人たちが来てくれたらと思います。過去に、実行委員として若い方が入ってきていただいたことがあったんですが、1回2回続けた後に、お子さんの面倒をみるため、実行委員を続けられないということがありました。

そういう子育て世代のお母さんたちとか、地域活動に携わりたいお母さんたちとか、そういう方たちのために、町の方でバックアップをしていただくことが有効なのかなと感じました。

佐々木部会長

ありがとうございます。田園フェスティバルは、私も取材に行きまして、本当にストーリー聞くと、残していきたいですよ。やはり、若い世代がどういう仕組みであれば関われるかですね。西條さんの市民活動に対するソフト面の支援のように、何か仕組みを考えていく時期にあると感じました。

次に、武田委員お願いしたいと思います。ありがとうございます。

武田委員

私は施策33の行政運営の効率化とDXの推進のSNSのところ。今後、情報発信していく中の一つの手段として、SNSは重要になってくると思っています。

現在の協力隊の方と連絡を取るんですけど、その中で、協力隊が主催している鉄道関係のイベントを多くの方に届けたいんだけど、どうしたらいいかといった相談がありました。

私が協力隊時代に、町の情報発信をしていたインスタグラムアカウントがあって、それで情報を拡散しつつ、そこだけでは行き届かない層に対し、一つのアカウントだけではなくて、町で運営するアカウントと連携しながら情報を拡散できたら、効果的に情報発信ができるのかなと思いました。

情報発信について、何か連携体制が取れるとすごくいいんじゃないかなっていうふうに感じました。

佐々木部会長

今、SNSの話がありました。やっぱり導入が必要なものだと思います。今、武田委員から話がありましたけれども、いろんな相談も来ているということで、勉強会みたいなものを行った方がいいと思います。世代間のギャップもあるから、どうですかね。

そういう意味ではDXについても、この言葉を作った大学教授は、業務を効率化するというのではなくて、人々の幸せを促進するためにDXという言葉を作ったんですよ。このDXは、まだまだ黎明期なので、やっぱり勉強会みたいなものを行っていかないといけないんですよ。

武田委員           そうですね。確かに世代間のギャップもあると思うので、勉強会でそれを埋めるのも一つだと思います。また、スマホを上手く使える世代が中心となって勉強会を行い、情報発信をすれば、もっと多くの人に町が情報を届くようになるのかなと思います。

佐々木部会長       はい。そうですね。次に赤間委員からお話を聞きたいと思います。SNS の活用の勉強会の場を作っていくという話がありましたが、赤間委員お願いします。

赤間委員           赤間でございますよろしくお願いいいたします。SNS って大事だねって話は僕もそう思います。各自治体とか、企業もやっていますけれども、仕組みとかノウハウを知らないで運用してるケースも多いんです。

                          他人事じゃなくて SNS を業務の一環として使っていく。そういう意味ではやっぱり勉強会は大事ですね。一人一人が SNS のプロになりなさいというわけではなくて、最低限必要なレベルまで達していただければ、発信できる頭になっている集団ができあがると思います。

                          僕も施策 33 をベースにお話することになると思うんですけども、美里町のホームページについて、かっこいいと思います？というのが本質にあります。もちろんホームページの役割は情報の発信なので、正しい情報を素早くて正確に伝える、見やすく伝えるというのが、まず大前提ではありますが、それだけでこのスローガンを叶えるための魅力が乏しいなど。

                          全体会で、佐々木会長が表紙を作ったらいじゃないかっていうのはもう大賛成でして。かっこ悪いよねって思っちゃったら、自分たちの意識改革をしたほうがいいですよというのが僕の意見です。

                          僕は、ホームページの制作会社をやっている、デザイナーを抱えているのでその部分の目線で見るとは、ダサくて OK などところどころもちろんあるんですよ。品質やプレゼンテーション能力で勝負してもいいんですけども、それに加えて、見た目とかデザイン要素って非常に大事だと思います。

                          美里町の魅力的なキャラクターいますよね。それがもう少し上手く活用できるといいんじゃないかなというふうに思います。

佐々木部会長       ありがとうございます。最初の勉強会の話はやっていったほうがいいですね。職場内研修という、少し硬くなりますが、少し柔らかく学べるような場が必要なんだと思います。

                          それとホームページの部分ですね。ホームページは確かに重要なインフラではあるんですよ。若者や移住を考える方は、まずホームページ見るんですよ。また、最近は高齢の方もスマホを使いこなしての方も多いんですよ。そういう意味ではもう全世代対応になってきていますので、ホームページの整理とデザインだと思います。若者への訴求力ということでも重要であると思います。SNS の活用とホームページについてご意見いただきました。

                          では、次に、石垣委員からお願いします。不動産のプロですので、その観点からお願いします。

石垣委員           今、赤間さんからホームページの話がありましたけれども、実は私もホームページで思うところがありまして。私たちは 1 年前に協会として美里町さんと空き家バンクの協定を締結しましたが、その後、空き家バンクのページが全く変わってないと思うんです。

                          我々が入って仕組みが変わったので、そこは一番変えて欲しいなと思っていました。我々が入った意味としては、売りたい人と買いたい人が直接やりとりしなくてもいいという点だと思います。個人でやることもできますが、専門業者が入り、選択肢が増えたという点が反映されていなくて。他の市町村だ

とイラストつきで説明しているんですね。これは変えないと進まないんじゃないのかなっていうのは思っていました。

また、前計画を見せていただいたんですけども。この移住定住という部分が前回とてもシンプルで、文字数も少なかったんですけども、今回それに比べて非常に内容量が増えて、しかも、施策1、1丁目1番地に持ってきたっていうことなので、かなり重要な点と考えているんだろうと、私もすごく伝わってきました。

逆に言えば、注目度が高い施策になってくるので、しっかりと実行できなければ、町民からも意見をいただくということになるのかなと思うので、1番目に持ってきた以上は、やはりこの先、実行できるかどうかというところが問われてくると思うので、そこはぜひお願いしたいなと思っております。

あと、先ほど西條さんから、駅の西側の空き店舗を使いたい人がいるという話を聞きまして、もし、そういう方がいるのであれば、やはりこれはチャンスだと思うので、行政としても後押ししていただきたいなと思います。他の市町村の話ですが、店舗を開店する際に、家賃や改修費用の補助を出す取組が行われていました。どうしようかなと考えている人の後押しにはなると思うので。まずは駅の西側のちょっと元気がなくなったところを、活性化させるための後押しが重要ではないかと思います。

どうしてもお金の話になってしまうのかもしれませんが、美里町で開業したらこういう特典があるよっていう部分を、何かつけてあげるといいのかなっていうふうに思います。

もう1点、空き家バンクの話に戻りますが、資料の中で、令和6年度の空き家の件数が612件と急が増えてるんですね。その前の年まで180件ぐらいだったのが増えています。何かあったのでしょうか。

高橋係長

件数が増えた件につきましては、令和6年度に改めて空き家の件数調査を実施した結果です。

石垣委員

ありがとうございます。これまた違う町なんですけど、空き家の相談会を年3回ぐらいやっけていまして、結構人が集まっているそうです。どうやって集めてるんですかと聞いたら、固定資産税の納付書に空き家相談会のチラシを入れて送っているそうです。空き家を持つてる方は、どこに相談していいかわからない方もいるので、その方たちにダイレクトに相談窓口がありますと伝えることで、大きな反響があると思います。

移住定住を進めるのであれば、家や土地をしっかりと掘り起こしをしていかないと、移ってくる場所がないのでは移住定住は進まないと思うので。その点をがんばっていただければなと思います。

佐々木部会長

はい。ありがとうございます。今のお話からも特に重要なのは、移住定住施策を一番にしたという部分なのかなと思って聞いてました。これをどう捉えるかだと思うんですね。要は魅力を出さないと移住定住はありえないわけですから、その魅力をいかに出すかっていうことで、一番上に持ってきたっていう意味と思って聞いてました。

また、空き家バンクに関しては、こういう不動産との連携も始まりましたので、本当にやる気満々でありがたいことだと思います。チラシを入れて相談会を行うという話がありましたけれど、その辺のところも少し踏み込んで、少し変えていってもいいのかなと思いました。

最初ホームページの話から話題が出ましたけど、やっぱりホームページの構成について、考えていく段階なのかと思います。

では、次に伊藤委員の方にお話しいただいてもよろしいでしょうか。

伊藤でございます。初めてなので、皆様のご意見も踏まえながら、いろいろとお話させていただきたいなと思います。

まず一つ目はですね、私は仙台市の中小企業活性化委員会を務めているのですが、仙台市でも2023年から人口が減少傾向にありまして、大学もたくさんあるのに、地元に残らず東京に出てしまう方が増えているようです。美里町と同じように、魅力のあるまちづくりという同じような課題を抱えているんだなというのがわかりました。

若い方を呼び寄せて、地域や企業を活性化するような取組は、これから多分競争になると思います。自治体、企業ごとの競争みたいな形になると思いますので、それにどう勝っていくかっていうことを考えなくちゃいけないのではないかと強く思います。

今日、佐々木先生からスローガンの話をいただきましたが、新しい大好きをということで、すごいスローガンだと思います。前職で楽天球団のマーケティングやってたんですけども、まず、好きになってもらうには、知ってもらうことが大事でして、知らないと好きにならないんですね。まずは知っていただく努力が必要で、先ほど皆さんからSNSの話が出てましたけども、若い人たちはSNSをすごく見てるんですね。

私どもの会社に最近急にいろんな人たちが入社するようになりまして、オウンドメディアを作ったことが一つあります。オウンドメディアとは社内報を外部に公開したもので、社員が賞をとりましたとか、専務の独り言とかですね、若い人たちがチャレンジしたことについて書いてあったりするんですけど、会社の雰囲気伝わって来てくれるので、情報発信は、皆さんから意見が出ていますが極めて大事だと思います。

私たちは美里町でレタス作っているんですが、営業先に言われたのが、栄養もあってすごく新鮮なのはわかるがそれを発信しないと駄目ですよと言われました。すごくいいスローガンですけど、どう知っていただくかを考えるのが大切だというのが、まず一つの意見です。

二つ目でございますけれども、私どもグリーンベースに30人ぐらい外国人を雇用しています。その中で、横浜に行って、美里町に戻ってきた人が1人いました。どうしてだろうと聞いてみたら、人が温かいからっていうことでした。舞台の方だよねと声をかけてくれるたり、落とし物を拾って届けてくれる。そういう温かさみたいなものをどう発信していくかだと思います。

観光についても、いわゆるビジネスツアーができると思っておりまして、我々の工場と大崎耕土の大地を見て見学するツアーを一つ組み、修学旅行を受け入れることを検討しています。学生さんなどの若い方に美里町を知ってもらう機会となるかと思っています。

あと2点だけお話させていただきたいんですけども、農業関係でお話しさせていただくと、私ども美里町さんからお声がけをいただいて、農業の法人化を進めるため経営塾をやってきました。今、全国では法人化の次のステップの取組が進んでいます。

その一つが販路の統一化です。販路を一緒にすると、価格も安定しますし、作り方も一緒になりますので資材も安くなります。もう一つが人材確保でして、法人化した後にどう新しい人材を確保していくかということです。農業学校を作って、法人が雇用する農業人材を育てていく取組です。学校をつくるとなると、ハードルが高いのですが、農業体験っていう形で、若い方たち向けにツアーを組み農業法人とマッチングをしていくのがいいのではないかと考えています。

また、ふるさと納税の重要性です。私たちも微力ながらふるさと納税の返礼品になるものを作って提供したいと思っています。全国ではふるさと納税の収入をいかして魅力を創出し、企業を誘致する好循環ができています。やっぱりふるさと納税進めていかなきゃいけないと思ってまして、

これは我々企業側としても大事だなと思ってますので。お米とか野菜とか様々なものを町と提携してやっていきたいなど。

最後に、美里町のいいところっていうのをお話しさせていただきたいんですけども、舞台ファームでは、全国の10くらいの自治体と連携した取組をしてるんですが、美里町はスピード感があり、親身になっていただける自治体だと思っています。このようなことを企業誘致する際にはもっと発信していくべきだと思います。もし、そういうホームページがあるのであれば、私とそのホームページで美里町の素晴らしさを語りたいと思います。以上です。

佐々木部会長

ありがとうございました。今まとめてお話いただきましたけど、こういう方が美里町に関わっていただいていることが財産だと思いますし、舞台ファームさんが美里町に縁があってこられた経緯について、私も小林課長からよく聞いてまして、本当に素晴らしい関係だなと思っていました。

そこには、やっぱり信頼性というのはあると思うんですね。今の話を聞いていても結果が出ているので、次も何か始まるんだなってまさに心わきたつような話ばかりなんですよ。

また、知るというキーワードも出ましたが、私も舞台ファームさんのグリーンベースに行って、すごいなと正直思いました。外国人の方が自転車で移動していたり、機械でレタスのブーケが出て来りとかね、こうなんだと思ってですね、一緒に行った学生たちもすごく喜んでいました。

また、ご説明いただきましたオウンドメディアですよ。ただ町が発信するだけじゃないんだなと思って聞いてました。伊藤さんも出ていいよとお話がありましたが、ここにいる方や、お話のあった外国人の方に出てもらおうとか、メディア戦略を考えたほうがいいかもしれないですね。

また、舞台ファームさんの返礼品でふるさと納税を集めていただいて、ホームページをリニューアルできるといいですね。結構お金もかかるインフラなので、ふるさと納税への協力をよろしく願います。では、大変お待たせしました。志田委員よろしく願います。

志田委員

専務の後で話しぶらいんですけど、率直なところ、片倉委員が、子どもの声が少なくなるとのお話や、実行委員が少なくなるとどうしようかっていうようなお話があって、本当にボトムの一番基礎的なところに、どういうふうに応えるのかっていうことだと思います。

美里町の学生が卒業した後、どうしたらこの町に帰ってくるか。そこには確からしい答えはないんですけど、今回の心わきたつ未来を作るというフレーズがありましたが、具体的にどうするかを考えていくのが、一番肝要であると思います。

今、伊藤委員からですね、農業だけじゃなくて、まちづくりのことをお話いただいて、日本全国、本当に舞台ファームさんをはじめ、いろんな成功事例があるような気がするんですね。

特に私は銀行なので、融資する時に、取組の効果や因果関係を考えてしまうので、ある自治体の人口が増えたとして、おそらく、それは一つの要因ではないと思ひまして。例えば、先ほど話がありました駅の西側を活性化させる取組があって、それをPRするためのホームページやSNSといった情報発信の強化があつていうように、まちづくりのストーリーといいますか、何か、パッケージのようなものが今後必要なんだろうと思います。

佐々木部会長

ありがとうございます。今の意見も重要で行政施策のK P I なんですよね。行政は書いた以上やらなければならない。今後、進めていくにあたって、例えば全国の成功事例を調べることや、あるいはオンラインヒアリングもできる時代になりましたので、そういうものを使っていくのは有効ですよ。

他の部会でもこういう議論がされていて、今のような意見が広がらないといけないんですよ。素晴らしい意見を取り入れていくことは必要だと思います。ただそれを、成果指標と紐付けちゃうと行政計画としてはちょっと無理が出ちゃうので。心わきたつ指標をね、やっぱりあった方がいいんじゃないかってことでね、全体会にご提案したわけですけども。

小林課長ともご相談ですけども、今回多岐にわたるメンバーが入ってきてもらってますので、その方々ですよ、ご意見をやっぱりきちんと残すってことはですね、私の責務だと思いますので、がんばりたいと思います。

議論の中でホームページの話が出ましたが、D Xについてももう少し踏み込んでいく必要があると思いますが、美里町の心わきたつD Xのあり方は何なのかを議論したいと思いますが、皆さんいかがですか。

志田委員

私から質問なんですけど。素人なのでD Xというと生産性の向上、人間が時間かけてやっていたものをシステムが0 コンマ何秒でやる、その余った時間を違うものに使うぐらいしか思いつかないんです。銀行では、退勤管理をこれまでのタイムカードからシステム入れて、それが経理のシステムと連動するというわかりやすいD Xなんですけど。

自治体で求められるD Xの例とはどういうものなんでしょうね。先ほどのホームページを整理して、見やすくするのも一つだと思うんですけど。

赤間委員

ホームページの話は単純な話で。例えば、皆さん、子どもの幼稚園や学校を決めるのにホームページを見ると思いますが、私は印象に残らない場合1回除外するんですよ。

第1印象がいいかどうかで、すごく重要だと思っていて。データ数値よりも、心理的効果ってやっぱり大きいですよ。舞台ファームさんのホームページを拝見してますけど、ブランディングが上手いですね。ロゴから何から、そこからにじみ出るものがありますよね。僕はデザイナーとしてはそういう目線で見えています。

数ある方策の中の一つでしかないですけども、プライオリティーが高いと思うんです。例えば、ふるさと納税を増やしたいなら、ホームページにちゃんと写真を撮った返礼品を載せた方がいいとか。機能的な話も含めると、ホームページってすごく価値があるんですね。

志田委員

なるほど。はい。ありがとうございました。

赤間委員

あとD Xの話なんですけど、志田さんと近い考えです。生産性向上っていうのは一番の目的なんですけど、僕セミナーでD Xを扱うときに、目線が三つありまして。管理者目線と、現場監督目線と、もう一つが作業員目線であって、それぞれやるのが全然違いますよね。

管理者目線だと、それこそ壮大な計画を伴うことが多いですよ。それは設備を統一するとか。一方で作業員目線は割と単純で、例えば、立ちながらやる仕事を座ってやるだけで、生産効率が変わったりするわけですよ。そういうところで、何かちょっとした変化を加えることが割とポイントになるんじゃないかと話をしてるんですよ。

役場の皆さんが何か普段やってる事務作業について、手間がかかるみたいな話から、そこで改善のア

アイデアっていっぱい出るんですよ。ソフトを入れたりシステムを切り替えるなんて話は、管理者や現場監督がすればいい話で、その前にもっとできることがあるよねっていうのが、DXの話をするときの本質だと思うんです。何かアナログの思考がすごく大事だと思っています。

例えば、ラーメン屋さんの調味料プレートにしょう油や酢と書いておくと、その通りに戻せばいいから従業員の教育コストがかからないし、お客さんも元通りに戻すからきれいな景観を保たれるとか、ちょっとした配慮アイデアが、まず、できる方策なのかなと思っています。それがDXの本質だと思います。

佐々木部会長

ありがとうございます。今のお話を聞いててもDXの勉強会みたいなものやることがすごく大事ですね。実際に作業をしている人にとって、何が必要かなっていうところから考えていくのがいいですね。あと、志田委員の効果についての視点も重要な意見だと思います。

ということで、議論も長引いてますけど、武田さんにお話しを聞きたいと思いますけど。何か今の話を聞いてですね、どんなことでもいいのでコメントもらえればなと思いますが、どうですか。

武田委員

SNSについては、これまで自分がやってきたことなのでお話できることは少しあるかなと思いつつも、他の皆さんの専門の観点から見て、まちづくりについてコメントするところまで私も知識が追いついてないですけど、すごく勉強になるというか、逆にその観点を踏まえてのSNSの発信だったりとか、いろいろ活用方法ができるなっていうふうに思いました。

佐々木部会長

第3回もありますので遠慮なくご意見いただきたいですね。この世代に響くようなもの考えていくことがポイントとなりますので。例えば移住について、この世代に来てもらうとことが重要なわけですよ。

ということですね、議論も深まったところですし、必要な方向性がかなり示されていますので、それをどうやってこの計画の中に入れていくかってことですね。

はい。それでは事務局の方から。

高橋課長

もう一つ事務局からの説明もさせていただきたい項目があります。指標設定の方の説明もさせていただければと思っておりました。今、皆様からご意見等いただいて施策の展開等の文言については、各委員さんのご意見を、議事録をもう一度再度確認しながら、本文の方で反映させていただければというふうに思っておりますが、各施策の指標として今回ですね、追加させていただいております。

全体会で部会長から提案いただいた内容をすね、それぞれの施策ごとに指標として表しておりました。

代表してですね、23 ページでお話ささせていただきますが、1-4 施策の指標として、①住環境の整備などによる移住定住を促進する取組、心わきたつ未来を作る指標類型として、町内人口の社会増減とするということで挙げさせていただきました。

この考え方については、ここに記載されている通りですね、2040年の目標人口実現には社会増が不可欠であるため、計画期間中の転入者数から転出者数を差し引いた数、社会増数を指標として選定し、移住定住促進の成果を測定するというふうにしております。

参考といたしまして、令和2年度から令和6年度、過去5年間の実績として、参考・基準というところの欄にマイナス68人という数字を掲げております。目標年度であります令和12年度には、450人のプラスということを目標にしているというものでございます。

同じくですね、空き家バンクを活用した移住定住を促進する取組として、こちらについては、大好きを育てる指標類型ということで、空き家バンク契約件数を目標としているところです。

こちらの参考基準といたしましたのは、令和6年度の実績として2件、目標値の単位が人になってますがここは件の間違いでございますので、のち程訂正させていただきます。6年度実績が2件でした。こちらについては、令和8年度から令和12年度にかけて、若干の増を見込んで目標値を設定させていただいてるところでございます。

以下、施策2以降ですね、同じような考えで表にして、1個若しくは2個の指標を設定させていただいておりますが、それぞれの説明については省略させていただきます。

これについても、何かご意見ございましたらお願いしたいと思います。

佐々木部会長

はい。この辺の部分につきましてですね、改めて指標の説明をしていただきました。事前に、皆さん見てきていただいております。それを踏まえてですね、今日本当に良い形の意見を出していただきましたので、この施策の数値目標について、次回までに、確認していきたいというふうに思います。

今日は皆様から、いろんな意見をいただきまして、これを基に、適宜内容の修正をお願いしたいというふうに思っております。もしよろしければ、これで第2回目の部会の議事は終了とさせていただきたいと思っておりますがよろしいでしょうか。

それではですね、以上とさせていただきます。ありがとうございました。進行を事務局の方に戻したいと思います。

高橋課長

佐々木部会長ありがとうございました。それでは次第4になります。その他でございます。

委員皆様から何かご質問等ございましたらお受けいたしたいと思っておりますが、ございませんでしょうか。

【なしの声】

それでは事務局からでございますが、ご連絡させていただきます。次回開催につきましては、9月24日水曜日、14時からということになりますので、改めて開催の通知をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは以上をもちまして、第2回美里町総合計画審議会総務行政部会を終了いたします。ありがとうございました。

審議終了

—午前・午後 4時45分 終了—

作成者 まちづくり推進課 高橋 憲彦